

公益社団法人私立大学情報教育協会  
2022年度第2回情報セキュリティ研究講習会運営委員会、  
情報セキュリティ対策問題研究委員会合同会議議事記録

I. 日 時：令和5年3月1日（水） 10：30～11：30

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 参加者：中嶋担当理事・委員長、宮川委員、峰内副委員長、浜委員、賀屋委員、石山委員、  
倉田委員、西松委員、松坂アドバイザー  
（事務局）井端事務局長、野本（記）

IV. 検討事項

1. アンケートを含め今年度大学情報セキュリティ研究講習会の振り返りを行った。

- ・ ディスカッション部分の設計が難しく、技術的な設定を含め、解りやすさも考慮したい。
- ・ 事前のサイバー攻撃アンケートでチグハグな部分があった。また、ディスカッションストーリーは、早めに検討を開始したい。分量の関係もあるが参加者に早めの提示も考えたい。
- ・ インシデント事例が良かったとの意見が多く、大学の事例は講習会ならではの情報提供ではないか。
- ・ ストーリーでの討議は、戸惑いがありながらも感触として、各組織に当てはめると適切だったのではないかと。
- ・ 討議は、ひとつのチームは活発で、ひとつのチームは進まないなど、5~6名1チームで構成したが、バックグラウンドで理解の相違があり、グループは業務や役職で分けるなど、4名1グループで活性化させてはどうか。
- ・ 参加者が減少した要因を分析してはどうか。
- ・ 演習は動機付けをしないと難しい、また、模範解答的な説明があっても良いと考える。

2. 次年度開催に向けたテーマなどについて

- ・ 設置すべきシステムの紹介、現場で対応すべき対策、技術的な知識の習得など取り上げてはどうか。
- ・ BCP（事業継続計画）について、病院被害が多く、可用性の確保、時期に応じた対応・優先順位付けなど、課題を抽出する範囲でも取り上げてはどうか。
- ・ サイバーセキュリティ監査など文科省の流れに対応させてはどうか。
- ・ 対策・制度・連絡網を設定しているが、現実とのギャップを埋められるような演習を設定できないか。
- ・ 対面開催時の大学設備見学が参考になったこともあり、ハイブリット開催が理想ではある。
- ・ 経営層にセキュリティの認識をより持ってもらう内容が考えられないか。
- ・ 大学では年間30件の事件事故があり、生の情報を提供し、対応した話をしてもらってはどうか。大学事例は2件程度紹介してはどうか。
- ・ ケーススタディが研修の特長になっているのではないかと。
- ・ ベンチマークリストは、有益なのか、意思決定や現場で活用されているのか、見直し検討が必要ではないかと。